

# 将来に必要な力を 育てるために

“インターンシップ(就業体験)”でキャリア観を養うことで  
将来につながる学びのモチベーションを高める

## 関西大学キャリアセンターの 協力で実現した 高校生のインターンシップ

同校では、社会あるいは仕事とは何なのか、また仕事を通じて自身を客観的に見つめ直すため、キャリア教育を積極的にを行っています。その一つとして、関西大学キャリアセンターの協力を得てインターンシップに取り組んだのは2008年のことです。対象は高1から高3の希望者で、法



「ほっともっとフィールド神戸」にてグラウンド整備をする生徒たち。

律事務所をはじめメディア関連、教育機関、金融機関、流通関連などさまざまな業種の21の企業や団体が生徒を受け入れ、就業体験を行います。

この取り組みの大きな目的は、既成概念にとらわれることなく、自由な発想力と豊かなコミュニケーション力が必要とされる時代にふさわしいキャリア教育環境を構築し、生徒一人ひとりの人生観や職業観を育みながら進路を考え、実現させることにあります。

生徒たちが就業体験を行うのは夏期休暇中。実施前には社会人に求められるマナーや心構えを学ぶ「事前講習」、さらにインターンシップ後に学んだことを自己検証し、今後の進路決定に反映させるための「事後講座」や就業体験を経験したことと発見したことや変化した職業観を全校生に向けて発表する「シンポジウム」などを実施します。今年参加した生徒に、インターンシップに応募した理由をお聴きしました。

「よみうりテレビ」に行きました。他の職種にも興味があるので、テレビ局で就業体験ができるのは絶好のチャンスだと思います」



「よみうりテレビ」スタジオ見学の様子。

「法律に興味があり、関西大学に進学する際は法学部で学びたいという気持ちがあるので「上原総合法律事務所」を希望しました」

ほかにも「JALスカイ大阪」(Iさん)、「三菱UFJ銀行」(S

さん)、「オリックス野球クラブ」(Hさん)など、生徒たちの興味・関心のある分野はさまざまですが、皆が「就業体験ができる絶好のチャンスと思い参加した」と口をそろえて言います。

### 憧れの仕事を体験して

「見えてきたこと」  
「わかったこと」

インターンシップの期間は、最短で1日、最長で4日間となります。短い時間であっても、「社会」という学校とはまったく異なる環境に身を置いて体験することは、

生徒たちにとってはすべてが発見であり、驚きとなります。そして実際に就業することで、一つのこととをするためにはたくさんの方が影で支えており、見えていることだけがすべてではないことを実感したようです。

「空港で飛行機の整備をする人、天気を予測する人、他の空港と連絡を取る人、情報をデータ化する人など、航空会社の人たちは、一機の飛行機を飛ばすために力を合わせていることがわかりました」

(Iさん)

ホームグラウンドの整備をしました。とても重労働で、プロ野球は選手だけが戦っているのではないと思いましたが、

(Hさん)

「中日新聞」スコアブック講習を受ける生徒たち。

また、「社会に出て働く」ということは他者と密接なつながりがあり、仕事も社会的影響、責任も痛感したようです。裁判を見学したKさんと金融機関に行ったSさんは、「仕事上の少しのミスが大きなトラブルを生むことや、人生を左右する立場に立つ仕事もあることを知った」と、緊張した表情で語ります。



「JALスカイ大阪」では、飛行機を安全に飛ばすためには、いかに多くの業務や人が関わっているのかを知った。

## 将来の方向性が 見えてくることが 今できる勉強への 動機づけとなる

最後に、インターンシップを経験して、自分の中で何か変わったことがあるか尋ねると、「憧れていた職業に就くために、今、しなければならぬことをやるうと思った」「働くことそのものに興味湧き、他の職業についても調べてみたいと思った」といった意見を聞くことができました。

現在、高3のMさんは、「どこかの企業に就職するかな



「FM802」では、いつも聴いている放送の裏側に潜入。